

心がそのまま伝えられる演奏を 目指したいです。



Q. 趣味や最近ハマっていること、マイブームはありますか。

A. 植物が好きなので、ベランダでガーデニングをしています。地元の家には庭があったので野菜を育てていたのですが、今は鉢植えで観葉植物やシクラメンを育てています。何年か前から球根でサフランを育てていて、それを収穫してカレーをサフランご飯にして食べるのを楽しみにしています。

Q. 4歳でピアノを始められたと伺いました。これまでのご自身の演奏活動について、印象的だった出来事がありましたか。

A. はじめはグループ・レッスンで音楽を始めて、その延長線上にピアノがありました。ピアノと真剣に向き合い出したのは小学5年の時からです。それまでは習字や水泳、バレエなどと同じ“習い事”という感覚でした。初めてフルコンサートを経験したのが大学3年の時で、どの曲も個々では仕上がっていたので弾ける、と思っていました。でも、いざ当日を迎えると、全ての曲の味が薄くなり、ちょっとした綻びから崩壊が始まったり...と、大変な思いをしました。コンサートは、コンクールとはまた違った仕上げ方、追い込み方をしなくてはならないんだな、と知りました。

Q. 片手で演奏する曲は、その技術はもちろん、低音から高音までの音色がストレートに聴き手に訴えかけてきます。フィナーレを飾るのは、スクリャービンの「左手のための2つの小品」ですね。

A. 実は2年前の2月、右手を麻痺させたことがあるんです。腕の上側の神経が完全に麻痺して動かせず、だらんと垂れたまま、コップやフォークも持てない状態が2ヶ月続きました。ちょうど大学4年の最後でしたので、卒業試験の成績によって褒賞コンサートがあり、それをどうしてもキャンセルしたくなくて、「左手だけでも弾ける曲を...！」と、右手が麻痺している期間は左手の曲を弾き続けました。3月18日は、皇居内の桃華楽堂でスクリャービンの「左手のための2つの小品」を初めて弾いた日です。今回、偶然にも全く同じ日付にコンサートができると知り、この曲は絶対に弾かねば、と思いました。左手でしかピアノを弾けない期間はとても辛かったのですが、それだけに音楽と真摯に向き合えた期間でもありました。あの時からちょうど2年、当時の気持ちとピアノが弾ける幸せを噛み締めながら弾きたいと思います。

Q. 今回のリサイタルでは、左手で奏でる曲から、まるで管弦楽のように壮大な「大ソナタ」のような曲まで、実に多彩なプログラムをご用意されています。

A. 選曲でまず1番最初に決まっていたのは、スクリャービンの曲です。もう1曲、思い出の左手の曲を弾きたくて、それがブラームスの「左手のためのシャコンヌ」です。それから先は、両手の可能性を最大限に使ったシューマンのソナタ3番、両手の交差などが面白い、大好きなモーツァルトの変奏曲、と自然に決まりました。

Q. この「フレッシュ・アーティスト from ヨコスカ」リサイタルシリーズは、新人演奏家の更なるステップアップを応援しています。今後のビジョンを教えてください。

A. 今回、耳馴染みのない曲も含まれていますが、それは有名ではないかもしれないけれど、もっと愛されてほしい素晴らしい曲です。「知らない曲だったけど良かった！」と言っていただけるような、心がそのまま伝えられる演奏を目指したいと思います。

フレッシュ・アーティスト from ヨコスカ シリーズ48
鐵 百合奈 ピアノ・リサイタル
Yurina Tetsu Piano Recital

2017年 3月18日(土)
14:00開演

 ヨコスカ・ベイサイド・ポケット